

一九一八年十一月十一日

この日を忘れぬように

二〇一八年十一月十一日、

そして永遠に

フレドリック・ブレニオン

それは戦争を終結させるための戦争となるはずでした。しかし、結果としてそのようにはなりませんでした。それはより民主的で平和な世界を実現するための戦争となるはずでした。しかし、その試みは失敗に終わりました。その戦争は数週間の内終わる見込みでした。しかし、その惨禍は四年もの長きに渡って続いてしまいました。その戦争による死傷者は八百万から二千万人にも及ぶと推定されています。欧州の若い世代はすっかり破壊されてしまいました。二度と起きてはならない戦争でした。しかし、その惨禍は繰り返

されることになってしまいました。その戦争がもたらしたことが一つありました。世界を永久に変えてしまったことです。しかし、問題は何か一つ解決されることはありませんでした。結局その二十一年後に起きることになる新たな戦争の火種を蒔いただけに終わったのです。この戦争は「大戦争」と呼ばれました。世界大戦です。現代では「第一次世界大戦」と呼ばれています。ちょうど百年前の一九一八年十一月十一日に終戦を迎えました。この日は休戦記念日、あるいはリメンブランスデイとして知られ、米国では退役軍人記念日（ヴェテランズデイ）と

呼ばれています。

今年の退役軍人記念日は日曜日に行われ、私達の日曜礼拝が行われる日です。この日、私達は戦争と平和という大きな問題について深く考えねばなりません。参考のため申し上げますと、二十世紀には一億二千三百万人もの人が戦争で命を奪われたのです。そして、気象の変動や水、食糧、石油といった資源の枯渇によってもたらされる混乱について考える時、将来への不安は深刻になる一方です。

私達は平和ということを考えねばならないのです。

ところで、私達は平和ということの本当に理解しているのでしょうか？本当にわかっていますか？

過去三千四百年の有史時代の中で、平和だった時代はわずか二百六十八年しかないそうです。それは世界の歴史の八パーセントです。同じく残念なことに米国は

一七七六年の建国以来、二百四十二年の歴史のうち、二百二十五年もの間戦争を行っていたのです。我が国で平和だった時期は、子供が成長して兵士として死地に赴くようになるまでの期間よりも短いということになります。

平和とは、単に戦争が行われていない状態を意味するのでしょうか？戦争と戦争との間の期間を平和というのでしょうか？

私達は平和ということをもわかっていないのです。

真に平和を理解しているのは仏陀のみです。真に平和を実現した人、それが仏陀です。平和を体現したのが仏陀です。

ある木の下で瞑想に入ったゴータマ・シッダールタは、自らのうちになぜ平和が全く訪れないのか覚ったのです。その自覚とともに、真の平和への道を見出しました。ゴータマが瞑想から立ち上がり、その地から歩み



出した時、ある修行者と出会いました。その修行者は直ちにゴータマのただならぬ威容に気がつき、ゴータマに「あなたは神ですか。それとも偉大な聖者ですか」と尋ねたのです。ゴータマは、「私はそのような者ではない。ただ目覚めた者である」と答えました。この時、ゴータマは「覚者」つまり仏陀となったのです。平和とは単に何もない状態を指すのではなく、目覚めた人の表情に明らかに表されているのです。仏陀は自らが歩む道を人々にも説き始めました。

様々な教えや経典が真の平和への道を様々に説いています。私は親鸞聖人が大切にされた『仏説無』

(4ページへ続く)

別院ニュース

報恩講

今年の報恩講諸行事は九月八日(土)と九日(日)の週末に行われました。京都の本山での報恩講は、毎年十一月二十一日から二十八日まで、親鸞聖人のご命日法要としてお勤めされます。報恩講は浄土真宗の伝統的な法要のなかで最も大切な法要とされています。歴史的に真宗門徒の一年は報恩講に始まり報恩講に終わるといわれております。報恩講とは、ご恩に報いる集いであり、仏法に出会う機会をいただいたことに感謝し、仏の教えの受けとめを深めるという意味です。8日(土)には「報恩講の集い」が行われました。A B Aの方々が企画くださいました。この集いは、勤行に始まり、大谷暢裕開教司教のご子息、大谷裕鍵役が報恩講の儀式を執行するために京都よりお越しください、英語による法

話をいただきました。9日(日)には午前十時より報恩講が勤まり、松林ジョージ元西本願寺輪番より法話をいただきました。大谷裕鍵役と彩子夫人がこの特別な法要にお越しくださいましたことは、とても喜ばしいことでした。報恩講の後は当番二の方々による精進おとき、素麺と豆腐サラダがふるまわれました。皆様のご参拝、誠にありがとうございました。

BBBBB!!!

BBBBB? ちょっと待って! ビッグ・バーゲン・セールは「B B S」のはずです。ではどうして「B」が一つ多いの? その余分な「B」は「ビユーティフル」の「B」です。八月十九日に行われたビッグ・バーゲン・セールはビユーティフルな成功、つまり大成功のうちを終えることができました。

その三つの理由は、一、皆様から寄付していただいた商品は、物を

大切に使い続けたいという思いを持った方々に買っていただき、それぞれが「第二の人生」を歩むことができるようになったから。

二、セールの準備期間中の準備作業を通じて、皆が友情を育み、相互の感謝の念を深めることができましたから。

三、売れ残った衣類はユニオン・レスキュー・ミッションに寄付され、ここでも助け合いの精神を発揮することができたから。また、他の売れ残った商品はロサンゼルス合気道センターに寄付され、彼らの基金集めに使われることになった。

八月のBBBBB? ちょっと待って! ビッグから数週間経った後、あるメンバーの方から陶器の数々を寄付していただきました。ほとんどの陶器は新品でした。それもそのはず、彼女は小売店を経営しており、棚を整理した際に出てきた物を寄付していただいたからです。それで、二回目のセ

ールを九月祥月法要後にソーシャルホールにて行いました。彼女のご寄付のお陰で、より一層の売り上げを達成することができました。

本年のビッグ・バーゲン・セールでは九千四百ドル以上の利益を上げることができました!

来年のセールでお手伝いいただける方、セール全体を指揮していただける方を募集しています。準備作業はマニュアル化されており、セールは地域でも評判の高い行事です。何もないところから作り上げる必要はありませんので、安心して取り組んでいただけます。ただリーダーシップを発揮して下さる方を必要としています。来年のセールの日程決定の締め切りは十一月十日です。

改めまして、皆様にはご寄付やご支持、広報のお手伝い、友情、そして楽しい時間をいただきまして、心より御礼申し上げます。

松村エミリー

お知らせ

庭園維持当番

皆様もご存じの通り、前原さん、川平さん、鶴田ご夫妻がいつも一所懸命にお寺の庭園の維持管理をして下さっています。先日川平さんより、彼が年に数度故郷の鹿児島へ帰郷している間、壮年会で庭の維持管理ができないかというお問い合わせがありました。私達壮年会も彼らが毎週ご苦労いただいていることを承知しており、また時折お手伝いさせていただきます。

今年の五月、壮年会で庭園維持当番を組織いたしました。そして十五人もの方々が早朝から草むしりや木の手入れ、掃除を行いに来て下さいました。皆が私達のお寺を誇りに思い、庭園の美しさを維持するためには喜んでお手伝いしたいという気構えでおります。また庭仕事を通して、何事も常に移りゆくという真理

をも味わう機会をいただいています。

今回の庭園維持当番は、十月二十日(土)午前八時に予定してあります。ご参加ご希望の方がおられましたら、また道具等についてのお問い合わせがございましたら、どうぞ寺務所まで、あるいは dkikedata@aol.com までご連絡下さい。よろしくお願い申し上げます
合掌 壮年会

餅つき

今年の年末餅つきは、十二月二十八日(金)午前九時より開催されます。餅つきは楽しい年中行事ですが、皆様のご協力が不可欠です。皆様も是非ご参加いただき、一緒に内陣の鏡餅やお雑煮のお餅を作りましょう。当日もたくさんお餅をお召し上がりになり、またお持ち帰り下さい。どうぞご家族やご友人とお誘い合わせのうえ、この楽しい伝統行事にご参加下さいますようご案内致します。

年末大掃除

大掃除は大仕事ですが、皆で力を合わせ、お寺を再び輝かせましょう。年末の大掃除は新たな年を迎えるための伝統的な行事です。今年の大掃除は十二月十六日(日)です。皆様のご協力なくしてこの大仕事を行うことはできません。美しいお寺で新年をお迎えできますよう、是非皆様お誘い合わせのうえにご参加下さいますようご案内申し上げます。

大谷楽苑

別院のサンデーサービスマとサクラガーデンリタライメントホームとサクライCFでも歌を披露しています。現在のメンバーは、イトガ・ウエインさん、エナ・シルヴィアさん、藤井実夢さん、川本節子さん、岡田在子先生、栗原・ナンシー・ジョンソンさん、トリッシュユニコルソンさん、伊藤

智子さん、今原ポール開教使で、船井一恵先生の指導のもと活動しています。練習は火曜日の午後七時から行っており、一緒に楽しく歌ってください。新しいメンバーをお待ちしております。



ブレニオン

(1ページからの続き)

『量寿経』の教えに耳を傾けたいと思います。仏の遊履したまうところの国邑丘聚、化を蒙らざるはなし。天下和順し日月清明にして、風雨時をもつてし災厲起こらず。国豊かに民安し。兵戈用いることなし。徳を崇め仁を興し、務礼讓を修す。(訳者註…『真宗聖典』七十八頁)

私もこのような環境に身を置きたいと思えます。しかし、そのようなことは可能でしょうか？平和とは仏陀の存在によるのです。つまり私は仏陀のおられる所にいなければならぬのです。

仏教は、仏法あるところ

ろに仏陀ありと教えています。もし生きた仏陀に依ることができないのであれば、教えに依ればよいのです。そして、聞法者としてその場に身を置くのです。仏法に生きんとする人々と共にいるのです。もちろん自分自身も仏法を生きているのです。そしてその経験を分かち合うのです。

曾我量深師の弟子である安田理深師は、仏陀が教えられたことは浄土とは僧伽の象徴であると言われました。つまり、三宝です。三宝とは、仏法僧です。どの一つが欠けても意味をなさないので、その三宝のうち、僧伽が私にとって最も中心的なものです。僧伽があつてはじめて仏法、すなわち仏陀の光であり、いのちである仏法が相続されるのです。

もし僧伽が浄土であるならば、私達のお寺は平和な所であればなりません。平和を率先して示す場であればならぬ

いのです。誰もが平和を見出す場であればなりません。平和に生き、平和を体現せねばなりません。

それはもちろん誰にとつても大変なことです。私達全てにとつて大変なことです。しかし、それは不可能なことなのでしょうか？私達の御同朋御同行である親鸞聖人は、この世は火宅無常の世界であると言われました。そして、念仏のみが真実であるとおっしゃいました。ここに私は救いがあると思つています。聖人は晩年にお手紙を書きになりました。それは私達宛にいただいた手紙でもあると受け取つても良いと思ひます。心と心が響き合う言葉をお書きになったのですから、それは私達への願いでもあると思ひます。

往生を不定におぼしめさんひとは、まずわが身の往生をおぼしめて、御念仏さうろうべし。わが身の往生、一定とおぼしめさんひと

み ち

は、仏の御恩をおぼしめさんに、御報恩のため、御念仏、ここにいてもうして、世のなか安穩なれ、仏法ひろまれと、おぼしめすべしとぞおぼえそうろう。(訳者註…『真宗聖典』五百六十九頁)

親鸞聖人は、私達全てが念仏申す生活を通して、自らの内に平和を見出すことのできる存在であると思出して下さったのです。平和の誓いを通してもたらされる生活です。聖人は、私達がその生活を通して平和を語り、平和な生活を送ることのできる存在であると思はれるのです。平和の教えは、浄土真宗の伝統においてもなかなか広がることはありませんでした。「戦争を終わらせるための戦争」が勃発する約一ヶ月前、一人の打ちひしがれた人物が日本の牢獄でその生涯を終えました。排斥され、僧籍を奪われ、罰せられた一人の人物。その

名を高木顕明といいます。社会運動に身を投じた僧侶でした。そのような方がこれからおられることを願います。彼は平和を念仏の根幹として強く世に訴えたのです。顕明師の心からの言葉です。

極楽世界には他方之国土を侵害したと云ふ事も聞かねば、義の為ニ大戦争を起したと云ふ事も一切聞かれた事はない。依て余は非開戦論者である。戦争は極楽の分人の成す事ではないと思ふて居る。(訳者註・高木顕明『余が社会主義』)

何と力強い言葉でしょう。私達が親鸞聖人や仏陀と共に歩む時、力を見出すことができるのです。僧伽の皆と共に歩む時、私達は力強く歩むことができますのです。念仏が私達の力の元です。そのことに疑いの余地はありません。

百年前に悲惨な戦争は終わりました。しかし、その後さらに多くの戦争が起きてしまいました。今日も戦争の惨禍は止むことがありません。そしてこの先にも戦争が待ち受けているかもしれない。平和とは戦争と戦争との合間の期間ではないのです。平和とは仏陀が、親鸞聖人が私達に示して下さった生き方なのです。そして、その生き方は高木顕明師のような方々によつて僧伽に受け継がれているのです。私達は今日でも平和を実現することができると信じています。

この記念日に、全ての戦没者に哀悼の意を捧げたいと思います。そして、今も戦地におられる方々に敬意を表したいと思ひます。

しかし、より一層念仏の教えをいただき、親鸞聖人の願いに心を傾けたいと思ひます。「世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ」



行事予定

九月

三十日 別院ファンデイ

十月

七日 十月祥月法要
十四日 秋季彼岸会

お彼岸セミナー (英語)

二十一日 日曜礼拝
二十八日 日曜礼拝

八口ウイン

十一月

四日 十一月祥月法要
開教忌

十一日 日曜礼拝
十八日 日曜家族礼拝

二十五日 日曜礼拝



十二月

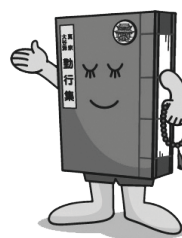
二日 十二月祥月法要

九日 日曜礼拝

十六日 年末大掃除

二十八日 餅つき

三十一日 除夜会



同朋のお悔み

加藤 悦子様

七月二十七日 御命終
行年九十六歳

原田 松子様

八月七日 御命終
行年八十六歳

平原 昌恵様

九月五日 御命終
行年九十歳

謹んで哀悼の意を表します。

